



## 山火事注意

山火事は、台風のような自然災害と並んで広範囲に影響を与える災害です。山火事の発生には季節的な特徴があります。山火事の約7割は冬から春（1月～5月）にかけて集中して発生しています。この原因としては森林内に落ち葉が積もり、燃えやすい状態になっていることや、風が強いこと、乾燥した状態になるといった自然条件が重なること、また、春先は行楽や山菜取りのために山に入る人が増加するほか、農作業に由来する枯草焼きなどが山林に飛び火することも原因となっています。

発生した山火事の原因が明らかなものについては、「たき火」が最も多く、ついで「火入れ」となっており不注意によるものがほとんどを占めています。たき火や野焼きをしないなど、火の取り扱いには十分な注意が必要です。

### ◎やむを得ず火を使う場合は、下記の点に注意してください。

- 1 火入れをする場合は、役場産業課で申請し必ず許可を受ける。
- 2 水バケツなど、消火の備えをする。
- 3 たき火、火入れの場所を離れるときは完全に消火する。
- 4 枯れ草等のある火災が起こりやすい場所では、絶対たき火をしない。
- 5 乾燥、強風時は火入れを行わない、また、ゴミ焼却は絶対に行わない。
- 6 火あそびは絶対しない。
- 7 たばこは指定された場所で喫煙し、吸い殻は必ず消すとともに投げ捨てないこと。



## 健康アドバイス

### 公立小野町地方総合病院

今回は、入院患者さんへのケアの一環として行なっている摂食嚥下障害への取組について、当院に人事交流として勤務している摂食・嚥下障害看護認定看護師からお知らせいたします。

この度、星総合病院より参りました、摂食・嚥下障害看護認定看護師の菊池知美と申します。急性期病院との雰囲気の違いに戸惑いながらも、同時に楽しさも感じております。

さて、高齢社会の現代において、摂食嚥下障害を抱えた高齢者が増加しています。高齢者の摂食嚥下障害は、加齢に伴う摂食嚥下機能の低下だけではなく、基礎疾患や内服薬、認知症など様々な影響により起こる事もあるため、とても複雑です。常に窒息・誤嚥・低栄養・脱水などのリスクを伴い、介護者の負担が増加します。このような現代において、摂食嚥下障害は、チーム医療で支えることが必要であると考えます。看護師も摂食嚥下障害に関する知識と技術を身に付け、ケアを行わなければならない時代となってきています。



日々の看護を通じて、皆様と一緒に、一人でも多くの患者さんの「食べる」を支えられるように、努力いたします。お気軽にご相談ください。

1月5日より耳鼻咽喉科（福島医大 今泉光雅医師）の診療が始まりました。嚥下障害に関する外来診療も行っております。

診療日及び受付時間／火曜日 13：00～15：30

問い合わせ 公立小野町地方総合病院 総務課 ☎ 0247-72-3181

# 新型コロナウイルスワクチン接種についてのお知らせ

**Q1. 新型コロナウイルスワクチン予防接種とは何ですか。**

**A** 感染症にかかると、原因となる病原体（ウイルス）に対する「免疫」（抵抗力）ができません。免疫ができることで、感染症に再びかかりにくくなったり、かかっても症状が軽くなったりします。

予防接種とは、このような体の仕組みを使って感染症に対する免疫をつけるために、ワクチンの接種をすることをいいます。

**Q2. 新型コロナウイルスワクチンの効果はどうですか。**

**A** 海外等の情報では、ワクチンを接種した人の方が、接種していない人よりも、新型コロナウイルス感染症を発症した人が少ない、かつ、入院する人（重症化する人）が少ないとの結果が発表されています。（発症予防効果は約95%と報告されています。）

**Q3. 接種はいつから受けられますか。**

**A** 新型コロナウイルスワクチン接種は、2月中旬から医療従事者に開始し、4月下旬以降に65歳以上の高齢者に接種が開始される予定です。対象者には個別通知しますので、もししばらくお待ちください。

**Q4. 接種費用はかかりますか。**

**A** 無料です。

**Q5. 接種場所はどこですか。**

**A** 勤労者体育センターで実施する予定です。※単身赴任や学生で村外に住んでいる方はご相談ください。

**Q6. 副反応とはなんですか？**

**A** 副反応とは、ワクチンを接種したことによる身体の反応で、一時的な症状が出ることをいいます。

**主な副反応**

注射した部位の痛み、頭痛、  
関節や筋肉の痛み、寒気、  
だるさ、発熱等

---

**まれに起こる重大な副反応**

アレルギー症状  
(アナフィラキシーショック)

※村でワクチンの接種を行う際には、その場で症状を軽減する対応をします。



【問い合わせ】健康福祉課 ☎55-3119

※治療中の病気がある方や、過去に予防接種を受けてアレルギー症状が出た方、食物等のひどいアレルギーがある方は、主治医に接種を受けてよいか確認しましょう。



## 健康アドバイス

### ひらた中央病院

#### 新型コロナウイルス感染症のワクチン接種



院長 西山 宗一郎 医師

いよいよ新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が始まろうとしています。

この原稿が広報に掲載されるころには医療従事者の接種は始まっているかもしれませんが。厚労省のホームページでは医療従事者の次に高齢者（65歳以上）でその次は基礎疾患を有する人や高齢者施設での従事者とのことです。まだ未確定の要素もありますが3月中旬以降に高齢者へのワクチン接種券が送付されるようです。

インフルエンザ予防接種と違う点がいくつかあります。公費でまかなわれるため無料です。現在使用が予定されているワクチンは2回の接種が必要で、メーカーによって21日間隔や28日間隔と違ってきます。皮下注射と筋肉注射の違いなどもあります。重篤な副反応にはアナフィラキシーといわれるアレルギーがありますがかなり頻度は少ないようです。アレルギーをお持ちの方はかかりつけ医などと相談の上ワクチン接種を受けるかどうかを決めておくのが良いと思われます。

問い合わせ：ひらた中央病院 ☎ 55-3333